

特集 ひと☆人 手話は言語

吉岡町手話サークルぶどうの会

会長 諏訪 美由紀 さん
副会長 岩崎 真理江 さん



インタビュアーの春山議員・藤多議員と

—吉岡町手話サークルぶどうの会とは。

岩崎さん 平成16年度の吉岡町手話講習会の受講生から「講習会終了後も手話学習を続けていきたい」という希望があり、平成17年4月より「吉岡町手話学習会」がスタートしました。さらに会員を増やしたい、学習回数を増やしたいとの思いから、平成22年「会員がぶどうの一粒一粒、みんなで集まって、吉岡町名産のぶどうのような実りある会にしていこう」という願いを込めて「ぶどうの会」と会の名前も変更し、新たなスタートを切りました。活動日は北下東部公民館で毎週水曜日の午後7時から9時まで、勉強会やゲームなどのレクリエーションも交え楽しく活動中です。

—会長としてどのようなお仕事をしていますか。

諏訪さん 日々の活動や交流行事・イベントなどのまとめ役、社会福祉協議会や役場との連絡・調整をしています。

—吉岡町で手話への理解・普及については、どのような取り組みをしていますか。

諏訪さん 今年の8月に、町内の学童クラブでの手話教室を実施しました。ふるさと祭りでの手話



諏訪さん（写真中央）

体験も毎年行っています。また、毎週木曜日に行われている役場職員の手話勉強会にも参加しています。

—活動していてよかったことは。

岩崎さん 手話のイベントを通して、手話に興味を持ってくれる人が増えています。交流した子どもたちと再会したときにあいさつしてくれることや、手話に興味を持った子どもたちが家族にも話をしてくれて、その家族の人も手話に興味を持ってきていること、そのような手話への理解の広がり、大変うれしく思っています。

—町議会や町政に望むことはありますか。

岩崎さん 障害による差別のない、暮らしやすい社会へ向けて取り組んでほしいです。また、避難所での支援を必要とする目印になるバンダナの準備をしてほしいです。

—町民の皆さまへ一言お願いします。

諏訪さん 聴覚障害は見た目では分からない障害です。また、手話は聴覚障害者には言語であります。このことへの理解が吉岡町でも広がることを期待します。



岩崎さん（写真右）

皆さんに聴きました 手話の理解と普及に向けて

議会広報常任委員が、町の課題について、関係する住民の皆さんにインタビューして、意見や思いを聴きます。今回のテーマは手話が聴覚障害者にとって言語であることへの理解とその普及について、皆さんにお聴きしました。

私たちが聴きました



子どものときに手話に触れる機会があると、少しでも身近に思ってもらえると思います。私が手話に興味を持ったきっかけは、ドラマ「愛していると言ってくれ」でした。
(ぶどうの会 会員)

まずは聴覚障害を理解した上で手話をコミュニケーションの一つの方法として使ってほしいです。手話教室など手話に触れる機会を増やしてほしいです。
(聴覚障害者福祉協会 会員)



以前はろう者が手話をしていると、ばかにされたような目で見られたが、今は「手話ができるんだ」と、カッコいいと思われるようになりました。簡単なあいさつの手話をみんなが使えるようになればいいなと思います。
(ぶどうの会 会員)



「吉岡町手話言語条例」が制定されてから、役場の人に手話であいさつされ、とてもうれしかったです。ぶどうの会でイベントに参加したり、手話ソングなど、手話での交流ができることが楽しかったです。役場に手話のできる人を置いてほしいです。
(聴覚障害者福祉協会 会員)



手話禁止となっていた頃からみると、今は違和感なく手話ができるようになったり、理解されてきたことがうれしいです。最近は新しい手話が急激に増えていることに驚いています。(聴覚障害者福祉協会 会員)

私は子どもが成人になったことを機にボランティアを始め、手話の勉強をし、手話通訳になったときに夫と出会いました。手話は私たち夫婦にとってなくてはならない言語です。若い人たちが手話通訳を目指していることに期待しています。
(ぶどうの会 会員)

議会での動き

- 令和元年 12月 町長より手話言語条例が提案され、議会は賛成多数で可決。
- 令和5年 12月 一般質問での提案により、全国手話言語市区長会に加入（町村長は準会員での加入となる）。
- 令和6年 9月 一般質問での提案により、手話言語国際デーとなる9月23日に庁舎のブルーライトアップを実施。

